



## 安心のまちづくりのために

第18回

# 高齢者の暮らしを考える

高齢者が健やかに安心して生活するためには、医療、介護、福祉など様々な面からの支援が必要です。支援は医療サービスや介護サービスを事業として行っていない地元企業にも広がっています。

松阪市では三つの地元企業と「高齢者にやさしいまちづくり協定」を締結しています。高齢者がいつまでも住み慣れた地域で暮らし続けるまちづくりに、企業と行政がともに取り組もうとするものです。

今回は地元企業としての取り組みや想い、また、9月29日に開かれた「RUN伴(ランとも)」について話を聞きました。



第三銀行 庄山 敏一さん



三重信用金庫 小林 由典さん



ダスキンマツザカ 野島 正宏さん

## 「高齢者にやさしいまちづくりを目指して」

インタビュー

高齢者にやさしいまちづくりを目指して、どのような取り組みをしていますか。

庄山さん

第三銀行では、できるだけ全ての職員が認知症サポーター養成講座を受けるよう取り組んでいます。各営業店の窓口で高齢者と接する機会が多く、認知症のお客様がみえた場合、職員がしっかり認知症について正しい知識を持っていることで、より良い対応ができると思います。もちろん業務中だけでなく、職員一人ひとりが日々の生活の中でも認知症についての意識を持つことが、地域全体の取り組みにもなります。高齢化が進む中、認知症サポーターに

なることは特別なことではなく、ごく当たり前の取り組みであるという風広がってほしいと思います。

小林さん

三重信用金庫では職員に認知症サポーター養成講座を受講してもらっています。また、職員の2人が認知症啓発活動を行うキャラバン・メイトとして登録しており、新しく入社した職員にも丁寧に指導しています。目にみえた何かがあるわけではありませんが、サポーターになり認知症に対して正しく理解しているという証のオレンジリングをつけて勤務することで、職員の意識が変わっていると思います。認知症に対して難しく考えすぎず、手伝い

野島さん

をさせてもらっているという気持ちで、自然体で取り組んでいきたいと思っています。

私もダスキンは訪問販売をしている会社ですので、広範囲の地域に伺います。独居高齢者のご自宅に入居する機会が多い私たちが意識してかわることで相手の変化に気づき、認知症の早期発見やその後の対応ができるのではないかと考えています。もしお困りのお客様や地域の方々にお会いした際、スタッフには「認知症について正しく指導をうけたサポーターである」と自信をもって行動してもらいたいですね。まずはオレンジリングを持つことから始め、社内にいる11人のキャラバン・メイトがしっかりとサポーターしていきます。

先日のRUN伴(ランとも)に参加した感想はいかがですか。

庄山さん

当日はのろま倶楽部、飯高有徳園の利用者と頭取も一緒に600m歩きました。ゴールをした時の利用者の笑顔には一緒に歩いた職員、ゴール地点の大石支店で応援をしていた職員一同、とても感動しました。認知症の方も住みよいまちをめざす第一歩が踏み出せたと思います。

小林さん

最初はどんなことをすればいいのかなと思っていましたが、市内や津市の店舗の職員にも声をかけ、十数人がリレーに参加し、とても大きなものを得る事ができたと思います。初めての取り組みで反省点もありましたが、来年もぜひ参加して、もっと大きなイベントにしたいです。

野島さん

運動が苦手なスタッフも自主的に参加し、当日は皆が完走できました。「イベントに参加したことが本当に自信につながり、こんな機会をもらえたことがとても嬉しい」という声を聞くことができました。日々の勤務で、オレンジリングをつけているもの、何をしていいのかわからなかったスタッフもRUN伴について知り、自分たちから「何かしなくては」と意欲を見せてくれました。これをきっかけにどんどん外へ向けても動いていきたいと思います。

RUN伴(ランとも)とは…

日本中が、認知症になっても安心して暮らせる地域になることを目指して、認知症の方やそつでない方がタスキをつないで、日本を縦断するプロジェクトです。